

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の推進
------	-------------------------

研究テーマ	3カ国5大学連携によるグローバル看護教育プログラムの開発				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
	研究分担者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	Wendy Hempstock
		所属・職名	上智大学看護学部・准教授	氏名	吉野 八重
		所属・職名	オレゴン健康科学大学 看護学部・講師	氏名	Ruth Tadesse
		所属・職名	オレゴン健康科学大学 看護学部・助教	氏名	Kristy Lanciotti
		所属・職名	国立コンケン大学看護学部・講師	氏名	Juraporn Tangpukdee
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ

講演題目	日本・米国・タイを結ぶグローバルな看護学部教育の実施
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】本研究は日本・米国・タイの看護大学をCOIL (Collaborative Online International Learning) 授業で繋ぎ学部教育を実施し、継続的なプログラムを開発することである。</p> <p>【成果】</p> <p>日米間のCOIL授業は2年生の科目で3回、4年生の選択科目で3回の計6回を実施した。2年生の科目は実施日が米国の休日であったため、学生間交流をすることができなかったが、米国教員に対し授業中に積極的な発言もあり、英語の課題レポートからも国際看護に対する興味が深まったことが伺えた。4年生の科目では本学部生2～5名が米国（オレゴン州立オレゴン健康科学大学）看護学部生の科目で英語によるゲストプレゼンテーションを実施し、米国学生との交流を深めた。また、回数を経るにつれ本学部生の国際性と英語力のアップが見受けられた。</p> <p>日タイ（タイ国立コンケン大学看護学部）間のCOIL授業では2年生の科目で1回、4年生の科目で2回実施した。2年生の科目ではタイと本学部生の交流時間があり、4年生はタイ教員のみとの交流であった。本学部生は翻訳アプリを使用しタイ語や英語で会話するなど積極的に関わり、国際看護だけでなく文化の違いや多言語の学習機会を得ることで、より異文化理解や多様性の受容ができたとの意見があった。また、2022年9月上旬には根岸がタイ国立コンケン大学を視察し、2023年度の両国における海外臨地実習の打合せも実施した。</p> <p>日米間のCOIL授業においては、これまでの教育的取組みを2023年7月にInternational Council of Nurses (ICN:国際看護師協会)主催の学術集会（モントリオール、カナダ）での発表が採択された。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>今後も米国とタイの看護大学と継続的にCOIL授業を通して学生間交流や学習の機会を作りつつ、3カ国の大学と同時に実施するCOIL授業の展開へと繋げていく予定である。また、2023年7月のICNによる学術集会での発表後は、論文投稿や継続的な国際共同研究の計画を立案していく予定である。さらに、2023年度からはコロナ禍以降初の海外臨地実習が可能となるため、本学部生がオンライン交流だけでなく直接的な国際交流によりオーセンティックな学習機会を得られるよう計画・実施し、学生の学習環境を整え支援していく。</p>